

演題 14. 血液ガス POCT —管理運用と検査室の
取り組み—

○大河原直美 小林敏幸 長束美恵 津村真由美 (東
京女子医大八千代医療センタメディエンス検査室)
岩下宏宣 (同医療技術部臨床検査室)

【目的】当院では 2006 年 12 月の開院と同時に POCT
の一環として、血液ガス分析装置を検体検査室・
ICU・NICU・MFICU の 4 ヶ所に設置した。今回、検査
室で取り組んでいる各分析装置データ及び機器保守
の一元管理と、検査の効率化について報告する。

【運用方法】血液ガス分析装置は ABL800FLEX (ラジ
オメーター社)、管理システムとしてラディアンス
(ラジオメーター社) を使用した。

①精度管理：コントロールは 1 日 2 回、キャリブレ
ーションは定時に自動で実施され、検査室のモニ
ターにて確認を行う。②機器保守：検査室のモニ
ターで機器の状態・精度管理・キャリブレーション結果・
試薬量をチェックする。また、毎日定時のラウンド
を実施する事により、試薬の補充と外部の清掃を行
い、必要に応じて機器状況を直接確かめる。③異常
発生時：検査室にランプが灯り、エラー音が鳴るの
でモニターにて内容を確認後対処する。コントロー
ル・キャリブレーション・クリーニング等は検査室
から遠隔操作を行う。

【考察】POCT として血液ガス分析を行う為に、分析
機は常に使用可能な状態にしておかなければなら
ない。管理システムを使用し、各分析機を検査室
からモニタリング出来る状態を構築した事で、トラ
ブルに対して迅速に対処可能である。また、実際
に機器まで出向く頻度もシステムを使用してい
ない施設と比較して少なく、1 日 1 回のラウンド
も 15 分程度の簡単な作業で済ますことが
き、検査の効率化に繋がった。今後の課題
として、測定実施者が多職種であること
(医師、看護師、臨床工学技士など) を考
慮した、講習会の実施やマニュアル作成
を行い POCT の適切な管理と臨床支援に
貢献していきたい。